

セ試平均点(900点満点；加重平均)は、

**文系型 18.2 点アップの 549. 2点、
理系型 13.1 点アップの 547. 8点！**

基幹科目の国語、数学アップで、文・理系型とも大幅アップ。英語は筆記、リスニングともダウン。地歴は日本史・世界史ダウン、理科は生物ダウン、化学アップ。

旺文社 教育情報センター 20年1月23日

20年センター試験(本試)が1月19日(土)・20日(日)の両日、全国736試験場で実施された。19年末に「高等学校卒業程度認定試験」の採点ミスが発覚し、追加合格者のセンター試験出願締め切りの延長措置が講じられた。大学入試センターが1月23日に発表した各科目の平均点等の中間集計を基に、文系・理系の標準型「5(6)教科7科目(900点満点)」の平均点を算出した。

文系型549.2点、理系型547.8点で、ともに前年より大幅アップ。数学I・A、国語、現代社会、地理B、化学I、数学II・Bなどのアップに対し、英語の筆記とリスニングテスト、生物I、世界史B、日本史Bなどのダウンが目立つ。

文系・理系型とも平均点の大幅アップで国公立大へは“強気出願”に走り、私立大のセンター試験利用入試の併願は、平均点大幅ダウンの前年より減りそうだ。

各科目の平均点等の最終確定は、2月7日に発表される予定である。

■ 志願・受験状況

<志願状況：志願者数約54万3,000人で、2年ぶりの減少>

- ①志願者数、前年より約1万人減：20年センター試験(以下、セ試)の志願者数は、前年比1.8%減の54万3,385人(高卒程度認定試験等の追加出願者含む)で、2年ぶりの減少。
- ②“現役”は3年ぶり、“浪人”は5年連続の減少：現役は18・19年と2年連続増加したが、3年ぶりの減少に転じた。ただ、過去最高の現役志願率(39.2%)に支えられ、減少率は1.5%に留まり、現役志願者数は42万8,013人だった。

一方、浪人は16年以降、5年連続の減少で、10万8,666人(前年比3.6%減)。

- ③志願者の減少率が小幅に留まった背景：20年の18歳人口・高卒者数がここ数年の2~3%程度の減少から、一気に5%近い減少が予測される中、志願者数が小幅な減少率に留まった背景には、次のような要因が挙げられる。

- 現役の大学進学率アップが見込まれている中で、私立大のセ試参加増(16大学73学部増の466大学1,316学部)と短大の参加増(8短大増の156短大)に加え、国公立大のセ試“多数科目負担”を敬遠し、少数科目の私立大セ試利用入試へ流れる“現役志願者層”の拡大。

- 推薦・AO入試などで年内に大学進学を決めてしまう“早期受験組”に対し、学習意欲や学力の維持・向上策の一環として、セ試を活用。
- 志願者のほとんどを占める普通科(志願者の構成比率 92.6%)で志願者減となっている一方で、進学率の高い理数科(同 2.0%)や総合学科(同 1.5%)などで増加しており、志願者層の裾野が拡大。

＜受験状況：公民は前年の「現社」平均点ダウンから、受験者大幅減＞

第1日目(1月19日)と第2日目(20日)の受験状況は、以下のとおり。

◇[第1日目](1月19日)

教科等	20年受験者(対前年比)	20年受験率(対前年比)	19年受験者	19年受験率
公民	306,378人(-4.8%)	56.4%(-1.8ポイント)	321,882人	58.2%
地歴	357,279人(-1.0%)	65.8%(+0.6ポイント)	360,795人	65.2%
国語	479,857人(-1.6%)	88.3%(+0.2ポイント)	487,440人	88.1%
外国語 筆記	497,980人(-1.3%)	91.6%(+0.4ポイント)	504,626人	91.2%
外国語 リスニング	490,414人(-1.4%)	90.3%(+0.4ポイント)	497,508人	89.9%

◇[第2日目](1月20日)

教科等	20年受験者(対前年比)	20年受験率(対前年比)	19年受験者	19年受験率
理科①	195,158人(-2.6%)	35.9%(-0.3ポイント)	200,278人	36.2%
数学①	361,961人(-1.8%)	66.6%(±0ポイント)	368,420人	66.6%
数学②	327,518人(-0.6%)	60.3%(+0.7ポイント)	329,564人	59.6%
理科②	233,865人(-2.1%)	43.0%(-0.2ポイント)	238,811人	43.2%
理科③	169,257人(+0.2%)	31.1%(+0.6ポイント)	168,866人	30.5%

注1. 外国語の「筆記」は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語。「リスニング」は英語のみ。

2. 受験者数は19・20年とも、速報値。3. 受験率(%)=受験者数÷志願者数(543,385人)×100

- 各教科(受験枠)の受験状況をみると、志願者減を反映し、理科③(物理Ⅰ・地学Ⅰ)を除き、全ての受験枠で受験者減となっている。理科③の受験者微増(391人、0.2%増)は、主に国公立大文系志望者の地学Ⅰの受験によるものとみられる。
- 公民受験者の減少(15,504人、4.8%減)が目立つ。これは、前年の現代社会の大幅な平均点ダウン(18年確定値57.9点→19年確定値50.3点)から、主に国公立大理系志望者にとって、いわゆる“公民保険”の意味合いが薄れたことなどによるものとみられる。
- 英語リスニングテスト(以下、リスニング)は、学部ベースで見ると、国立大100%、公立大98%、私立大60%超でそれぞれ合否判定に利用(筆記とリスニングの得点次第ではリスニング不採用の場合も含む)され、利用度は高まっている。こうした状況を反映し、リスニングの受験率は前年より0.4ポイントアップの90.3%と、初めて9割を超えた。
リスニングでは、ICプレーヤーの不具合などから181人の再テスト対象者が出たが、そのうち175人がリスニング終了後(第1日目)に別の機器で再テストを受けた。
リスニングの再テスト受験者は、機器の改良や操作の改善などが奏効して、18年457人→19年381人と、年を追って減少している。

■科目別平均点等(中間集計：大学入試センター発表、1月23日)

主な科目の前年との平均点差をみてみよう。

- 前年より平均点がアップした主な科目は、数学Ⅰ・A(前年中間集計値との差。以下、同。+12.3点)、国語(+11.2点)、現代社会(+9.5点)、地理B(+8.0点)、化学Ⅰ(+2.3点)、数学Ⅱ・B(+0.9点)など。
 - 数学は、数学Ⅰ・Aの大幅アップに加え、数学Ⅱ・Bも僅かにアップした。数学Ⅰ・Aは出題分野に大きな変化はなく、全体的に標準的な設問で、計算量も前年より少なく、易化している。第1問の中学でも見られる図形からの立式問題や、第2問の2次関数、第3問の図形と計量・平面図形など、いずれも素直で平易な出題である。

数学Ⅱ・Bは、難易度、出題分量とも大きな変化はない。第2問は計算量が多く煩雑で、図形的な考察を要するが、全体の難易度は前年並み。第3問の数列の問題も複雑に見えるが、設問の流れ(解法の誘導)に乗れば難しくない。
 - 国語は例年通りの出題形式や分野(近代以降の文章2題<評論・小説>、古文1題、漢文1題)であったが、評論の文章量が減少し、小説の選択肢も明確で取り組みやすく、大幅な平均点アップに繋がったようだ。
 - 公民では例年、受験者数の一番多い現代社会が、2年連続の平均点大幅ダウンの反動から易化し、3年ぶりの大幅アップとなった。現代社会は各分野から満遍なく出題されており、時事問題や国際政治も含め、確実な知識があればクリアできる問題も少なくない。
 - 地歴では、理系志望者の受験が比較的多い地理Bの平均点が大幅アップ。地理Bの出題分野は前年とほぼ同じで、大問数やマーク数も前年と変化なく、難易度は易化した。
 - 理科は、化学Ⅰがアップしたものの、他の科目は軒並みダウンした。化学Ⅰは基本問題の増加と計算問題の増加で、全体としての難易度は前年並み。

なお、前年大幅ダウンとなった物理Ⅰは、前年のような受験生に馴染みのない題材(潜水艇など)を避け、身近な題材や実験からの出題に変わったが、平均点アップには繋がらなかった。
- 一方、平均点ダウンした主な科目は、英語の筆記(-6.0点)とリスニング(-3.2点)のほか、生物Ⅰ(-9.2点)、世界史B(-8.6点)、日本史B(-3.2点)など。
 - 発表された英語の筆記及びリスニングの前年との平均点差は上記のとおりだが、「筆記+リスニング」(加重平均による得点率<62.2%>を基に200点満点に換算)は-7.3点。

筆記は第5問、第6問の出題形式が大幅に変わり、総語数も1割ほど増えたことなどが平均点ダウンに繋がったとみられる。

リスニングは形式・内容など、ほぼ前年を踏襲している。選択肢の長文化、部分的な読み上げ速度のアップなどで、前年よりやや難化した。
 - 理科の生物Ⅰは、実験考察問題の増加や選択肢の増加などで難化し、大幅なダウンとなった。
 - 地歴の世界史Bは、東南アジア・アフリカなど受験生に馴染みの薄い地域からの出題、

地図問題や近現代史の増加などで、前年より難化した。

日本史Bは、歴史資料の読み取りや社会経済史の増加などで、前年より難化した。

- 大学入試センターから発表された科目別平均点と受験者数(中間集計)をもとに旺文社が算出した5(6)教科7科目(900点満点)の加重平均点は、次のとおり。

- **文系標準型**(地歴と公民各1科目、理科1科目)； **549.2点(+18.2点)**
- **理系標準型**(地歴と公民合わせて1科目、理科2科目)； **547.8点(+13.1点)**
- ここでの文系型、理系型の平均点は、私立大型を含む全受験者の加重平均を集計したものである。実際の文系志望者(6教科7科目)は、平均点がダウンした日本史B、世界史B、生物Iなどの選択が理系志望者より多いと想定される。そのため、対前年のアップ幅は、文系志望者においては上記の文系型の数値より小さいと見られる。

一方で、理系志望者(5教科7科目)は、受験者の多い現代社会や地理Bの平均点大幅アップによって上記の理系型よりアップ幅は大きいと見られる。

- **文・理系型共通の5教科6科目平均点**(地歴と公民合わせて1科目、理科1科目の800点満点を900点満点に換算)； **546.7点(前年確定値との差、+21.7点)**

前年は新課程入試2年目に当たり、従来の傾向どおり大幅な平均点ダウンとなった。今回はその反動から、大幅にアップしている。

- 得点調整の対象科目間の平均点較差をみると、

地歴：地理B－世界史B＝6.4点／公民：倫理－現代社会＝7.4点／理科：物理I－生物I＝6.4点。

得点調整は、対象科目間の平均点較差が20点以上で、それが問題の難易差に基づく場合に実施される。現時点では、いずれも20点以内に収まっており、得点調整は実施されない模様。実施の有無については1月25日(金)、大学入試センターから発表される予定。

■文系・理系志望者とも、平均点の大幅アップで“強気出願”!

- 基幹科目の国語、数学I・Aの大幅アップなどから、文系・理系志望者とも国公立大への“強気出願”が見込まれ、難関・上位校ねらいも予測される。
- 理工系では、最近の私立大(国公立大との併願の多い、セ試利用の難関・上位校)における学部・学科改組などで、“理工系離れ”に一定の歯止めがかかっており、20年もその傾向は引き継がれると見られる。
- 国公立大を中心とした医学部(医学科)の24年ぶりの定員増と、セ試の平均点アップとが相俟って、国公立大医学部の志願者増、セ試利用の難関私立大の医学・理工系の併願増も予測される。
- 「教員養成」系は、教員免許更新制や研修制度、いじめ問題など、厳しい教職環境に対する敬遠志向が続き、志願者減になりそうだ。
- 年明け早々の世界的な金融不安などによる経済情勢の先行き不安感が急激に高まっており、出願に際しての今後の動きが注目される。

●平成20年度大学入試センター試験(中間集計)平均点等一覧

＜平成20年1月23日 大学入試センター発表＞

教科名	科目名	平成20年(中間)		平成19年(中間)		平均点の 対前年差	
		受験者数	平均点	受験者数	平均点		
文系標準型平均点(900点満点)			549.2		531.0	18.2	
理系標準型平均点(900点満点)			547.8		534.7	13.1	
国語(200点)	国語	213,282	118.8	217,134	107.6	11.2	
地理歴史 (100点)	世界史A	1,002	48.7	1,092	48.2	0.5	
	世界史B	40,729	60.0	39,897	68.6	▲ 8.6	
	日本史A	2,050	55.4	1,946	51.1	4.3	
	日本史B	63,710	64.4	62,768	67.6	▲ 3.2	
	地理A	2,751	56.4	3,188	54.7	1.7	
	地理B	35,891	66.4	33,867	58.4	8.0	
公民 (100点)	現代社会	60,295	61.0	70,321	51.5	9.5	
	倫理	22,363	68.4	19,299	70.5	▲ 2.1	
	政治・経済	35,562	64.2	31,329	65.0	▲ 0.8	
数 学	数学① (100点)	数学Ⅰ	5,037	49.0	6,989	45.0	4.0
		数学Ⅰ・A	143,394	66.6	149,265	54.3	12.3
	数学② (100点)	数学Ⅱ	3,643	30.6	4,780	31.7	▲ 1.1
		数学Ⅱ・B	128,399	52.1	131,818	51.2	0.9
		工業数理基礎	21	43.0	14	62.4	▲ 19.4
		簿記・会計	451	45.3	312	50.9	▲ 5.6
	情報関係基礎	197	66.0	194	61.6	4.4	
理 科	理科① (100点)	理科総合B	5,589	61.3	7,038	62.9	▲ 1.6
		生物Ⅰ	62,238	58.3	69,437	67.5	▲ 9.2
	理科② (100点)	理科総合A	9,945	49.4	12,761	58.8	▲ 9.4
		化学Ⅰ	78,796	64.6	86,138	62.3	2.3
	理科③ (100点)	物理Ⅰ	58,679	64.7	63,840	65.1	▲ 0.4
	地学Ⅰ	9,676	62.4	10,962	65.4	▲ 3.0	
外国語 (200点)	英語	筆記(200点)	223,539	125.9	228,254	131.9	▲ 6.0
		リスニング(50点)	213,650	29.3	216,025	32.5	▲ 3.2
		筆記+リス(200点)	—	124.2	—	131.5	▲ 7.3
		ドイツ語	73	130.6	67	146.6	▲ 16.0
		フランス語	120	138.1	130	146.7	▲ 8.6
		中国語	273	150.7	281	167.8	▲ 17.1
		韓国語	97	145.9	135	150.0	▲ 4.1

＜注＞① 文系標準型平均点(900点満点)は、国語(200点)、地歴(100点)、公民(100点)、数学①(100点)、数学②(100点)、理科(①、②、③合わせて集計100点)、外国語(200点；英語は筆記＜200点＞＋リスニング＜50点＞の得点率を基に200点換算)の加重平均点。

② 理系標準型平均点(900点満点)は、上記文系型の地歴と公民を合わせ(1教科として集計100点)、理科を2科目(①、②、③)の各加重平均点の合計×2/3=200点)、とする5教科7科目の加重平均点。

③ 文系・理系とも、大学入試センター発表の科目別平均点(小数第2位まで)と受験者数をもとに旺文社が算出(小数第1位まで)。

④ 5教科6科目(文系・理系共通)の800点満点を900点満点に換算)の加重平均点は546.7点で、19年(確定)より21.7点のアップ。

⑤ 地歴(B科目間)、公民、理科(各I科目間)における得点調整は、「倫理」-「現代社会」の7.4点が最大だが、実施されない模様。